

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)藤沢市桐原町物流センター新築工事	階数	地上4F
建設地	神奈川県藤沢市桐原町9番	構造	S造
用途地域	工業専用地域、建築法22条指定区域	平均居住人員	50人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年5月 予定	評価の実施日	2018年4月5日
敷地面積	9,263 m <sup>2</sup>	作成者	東洋建設㈱
建築面積	5,475 m <sup>2</sup>	確認日	2018年4月6日
延床面積	16,444 m <sup>2</sup>	確認者	東洋建設㈱



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 77%

③上記②以外のオンサイト手法 77%

④上記④オフサイト手法 77%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.7

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー性能への配慮を行っている</li> <li>リサイクル材を活用し、資源マテリアルの確保に努めている</li> </ul>		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>設備機器に防振吊り金具設置・部品、部材は耐用年数の長い品を採用・階高、壁長さ比率等、空間のゆとり配慮している・荷重のゆとり配慮している</li> </ul>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>緑地、中高木を設けている</li> </ul>
<b>LR1 エネルギー</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>LED照明等の高効率設備機器を採用している</li> </ul>	<b>LR2 資源・マテリアル</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>節水性能への配慮・リサイクル材を活用している・防水工事のプライマー等、化学物質の使用削減に努めている・断熱材はノンフロン品を採用している</li> </ul>	<b>LR3 敷地外環境</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ性能に配慮し地球温暖化防止に努めている・ガス設備を設置せず、大気汚染防止に努めている・交通負荷抑制に配慮している・光害の抑制に配慮している</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される